

□印… 行政区
○印… 部落

南都田地区行政区配置図

南都田(なつた)の起源

南都田の村名は明治22年(1889)4月から始まりました。その前までは、南下幅村(荻ノ窪を含む)・都鳥村・東田村の三村でした。
そのうち東田村は、柳田村と新里村が明治8年(1875)合併により誕生した村で、明治22年の南都田村成立前までの村名です。東田村は明治22年の合併の際、再度分離。つまり東田村のうち柳田の分は南都田側に、新里の分は若柳側に編入しました。
そして南都田は南下幅村・都鳥村・東田村の一部(旧柳田村)が合併して誕生しました。新村名は、大きな村の村名が他の村名を吸収する方法ではなく、南都田旧三村の村名一字を採用する方法をとりました。地域内の軋轢を避けたものか、あるいは旧三村平等の立場で出発しようとする現れだったか、時あたかも東北本線が開通しようとしている時期北上川舟運から陸上交通へと大転換する時期の新村名でのスタートでした。

南都田の支部は4つに分かれています

- ・南下幅(1.2.3.4.5.6)
- ・荻ノ窪(7.8.9.10.11.石淵)
- ・都鳥(12.13.14.15.16.17.18)
- ・柳田(19.20.21.22)

南都田地区の集落は、地名でなく数字であり、また同じ地名でも複数の集落にまたがっているため、行政区と地名を把握するのが難しいものになっています。

この配置図は、南都田の行政区と集落、そして地名の配置関係を分かりやすくするため作成しました。皆さんに「ふるさと南都田」をさらに知っていただき、郷土愛を育てていただければ幸いです。

南都田の集落(部落)は23あります

1区(1・2 部落)

石田、郷田、沢田、堰田、千刈田、堰根、田中、机地、古城、二丁目

2区(3・4 部落)

石田、宇南田、京徳田、郷田、駒木、午房谷地、沢田、界田、広表、谷地、四ツ柱

3区(5・6 部落)

浅野、板谷、界田、下広岡、鶴田、濁川、谷地

4区(7・8 部落)

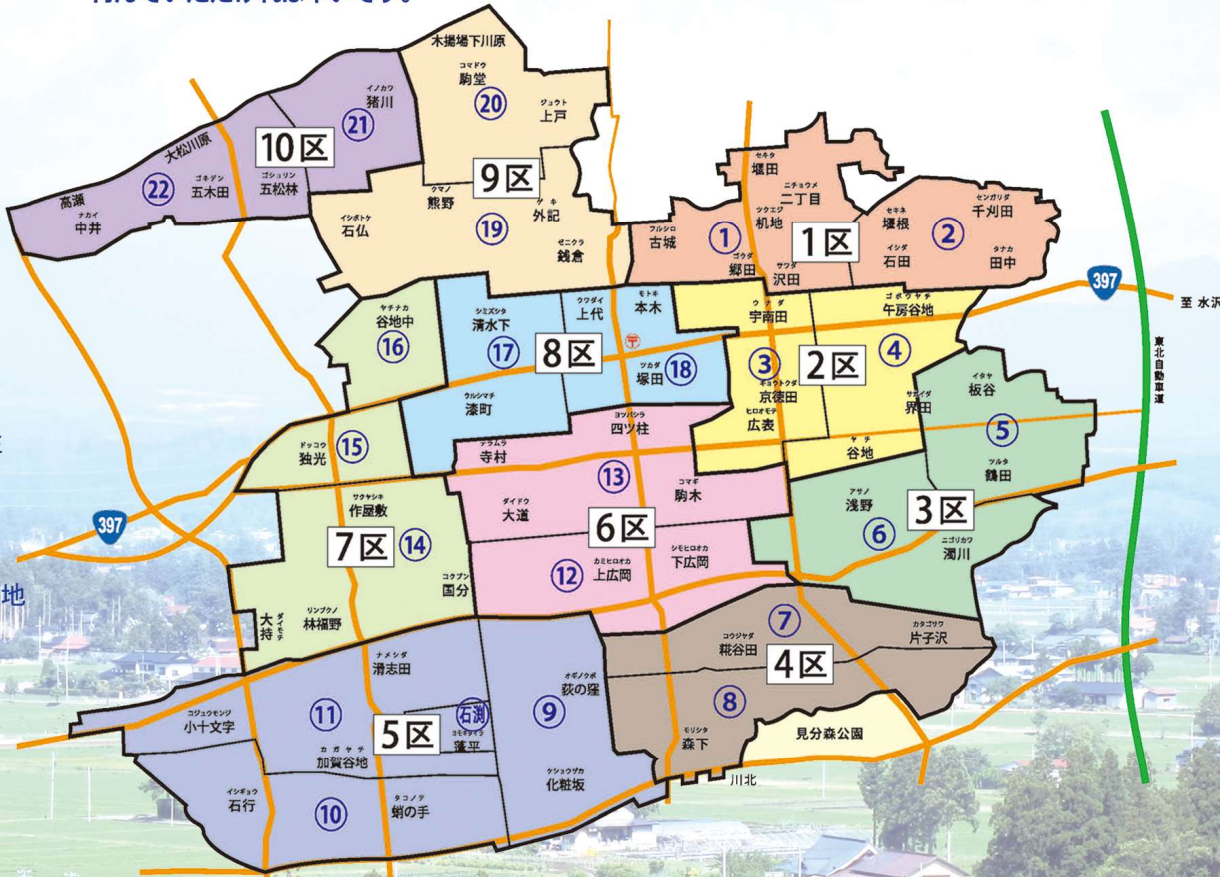
荻ノ窪、片子沢、化粧坂、糞谷田、森下、濁川、小山字川北

5区(9・10・11・石淵 部落)

石行、荻ノ窪、加賀谷地、化粧坂、小十文字、蛸の手、滑志田、蓬平

6区(12・13 部落)

上広岡、駒木、国分、作屋敷、下広岡、大道、寺村、四ツ柱



7区(14・15・16 部落)

漆町、国分、作屋敷、独光、谷地中、林福野、若柳字広表、寺村、滑志田、大持

8区(17・18 部落)

漆町、上代、清水下、塚田、寺村、本木、谷地中、四ツ柱

9区(19・20 部落)

石仏、熊野、外記、駒堂、上戸、銭倉

10区(21・22 部落)

石仏、猪川、駒堂、五松林、五木田、中井



角塚古墳(つのづかこふん)

南都田のシンボルである「角塚古墳」は、(ほり(周濠)をめくらし、円筒埴輪と形象埴輪を飾り、葺石をならべた典型的な前方後円墳(ぜんぼうこうえんふん)です。
築造は450～475年ころで、岩手県唯一、そして本州最北端に位置しています。現在の状態で、全長43m、墳丘の高さ4.3mの大きさです。
4世紀以降に造られた古墳が福島・宮城・山形で多数見つかるのに対し、北東北の岩手・秋田・青森では角塚古墳以外一基も発見されていません。理由は謎のままで、この謎が角塚古墳の国指定史跡となった理由でもあります。
出土した円筒埴輪・ニワトリ形の形象埴輪等は、胆沢郷土資料館(文化創造センター内)に展示されています。

発行者: 南都田地区振興会 (南都田地区センター内)

発行年月日: 平成29年3月

奥州市胆沢区南都田字本木152
TEL 0197-46-2213
FAX 0197-41-4008

ホームページ: <http://natsutashinkouai.web.fc2.com/>
メールアドレス: natsuta_s@yahoo.co.jp